

■ E者様

| | |
|---|--|
| <p>ア) にぎわい交流ゾーンの候補機能・施設（案）に対する意見・要望</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・にぎわい交流ゾーンだけでなく、新駅や居住ゾーンも総合的に見る必要がある。 ・居住ゾーンと切り離して考えるのであれば、にぎわい交流ゾーンは晴海臨海公園の魅力を活かした検討とすべきである。 ・晴海臨海公園は、大竹市の地域資源である。施設や周辺商業者と連携することで、にぎわい交流ゾーンが活かせるのではないか。 ・大竹市の特徴である大企業の集積を活かし、研究用ラボなどの施設は考えられないか。 ・建物を建てるのではなく、都市の余白という観点から芝生広場として有効活用する「にぎわい創出」も考えられる。 ・更なる域内消費拡大を考える場合、大竹市に宿泊施設がないのはネックであると思われる。 ・観光振興においては、瀬戸内DMOとの連携を検討（県内外からのインバウンドの取り込み）。 |
| <p>イ) 提案可能な民間事業について</p> | <p>-</p> |
| <p>ウ) 地域への貢献に対する考え方について</p> | <p>-</p> |
| <p>エ) 本事業への参画意向</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ディベロッパーや顧客企業から相談があったときに、事業の進め方や資金調達の進め方について助言できればと考えている。 |
| <p>オ) 事業参画にあたっての課題・条件</p> | <p>-</p> |
| <p>カ) その他（スケジュール、土地建物の所有形態等）</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・新駅設置時期が不明であることは、居住ゾーンの開発にあたりリスクとなる。 ・土地は購入よりも定期借地の方が、投資が回収しやすいのでは。 ・その場合に、民間所有施設の一部床を大竹市（公共施設）が長期に借り受ける形態の方が、事業の安定性の観点からは好ましい。 |